

桜川文芸

俳句

【桜川市岩瀬「萩」俳句会】
露ふかく地塘に春の立つ気配

姉妹共に在ませずおぼろ月

つくづくし人は別れを繰り返し

駐在所出口に一つシクラメン

ポイラーを焚く地下一階の孤独かな

春嵐枯山水を鳴かせけり

山眠る包みきれなき石の肌

【茂山俳句会】

一笑に付してマスクをかけ直す

余生とは何ぞ古びし障子はる

凡鐘の音色尾を引き年迎ふ

慎ましく生き大寒の循環器

オリオンや子の指先の限り無し

恋猫の欠伸大きく夜を吞む

藤田 凡鐘

若色寿美女

仁平 房女

金田とう女

萩原 勲彦

島田喜与子

萩原きしの

井坂 洋子

植田 祥雲

鶴見 菊江

泉 健作

鈴木ノブ子

田崎 信子

この家を守り八十路の初明り

カルタ取皺の手いつも後手になり

美しく生きてゆきたし大旦那

立春や石一つ動かしてみる

師の句碑に影投げかけて梅白

雪黒く降り白く積む竜飛崎

耕すやほのと湯気立つなぞへ畑

恙なく後期高齢年迎かふ

凜として一輪ひらく冬至梅

余すなく生きし掌を組む寒日和

【真壁短歌会】

見上ぐれば天より落つる白き滝

岩に光りつつ四度華さく

庭草を取りて居たれば幼な日に

子等の遊びしビー玉出でぬ

宮本 芳江

関根 幸子

向後 礼子

吉原 秀子

松崎 いま

海老沢静夫

竹林 てる

大関 くに

安蔵久美子

飯山 昭

田中 要

宮田 君江

俚謡

【さくら俚謡会】

春の夕暮れ 娘が髪洗う

春の機嫌も 三寒四温

恋は寝たふり 覚めたふり

土手に並んだ 土筆が叫ぶ

天下取るぞと 待つ選挙

昨夜荒れし風に残り葉散り果てて
裸木に冷たき雨降りそそぐ

変わりゆく世に変わらざる筑波嶺の
嶺覆いたる初雪眩し

戸を練れば風の又三郎吹くもがり笛の
響りていよいよ冬到来す

めぐり来る季待つ裸木凜々と立つ
冬日溜まれる温き庭辺に

我が街に富士に劣らぬ山がある
風光明媚の紫紺の筑波嶺

立春の声にさそわれ紅梅の
ふくらむ蓄土やわからさき

【一般投稿】

大山 しげ

稲川 好子

根本よし子

小林 和子

市村 ヤス

青木 栄子

岩瀬きみ子

稲葉 建正

田 哲人

☆人と地球に優しいエコ宣言☆

株式会社 杜匠

本社 〒300-3257 茨城県つくば市筑穂1-2-1 O.T.Nビル2F 202
TEL 029-877-3456 FAX 029-877-3457
桜川支店 〒300-4429 茨城県桜川市真壁町東矢貝617-2
TEL 0296-54-2265

セカンドライフ店オープン

リンデンラボ社運営の仮想空間「セカンドライフ」に展示場をオープンしました。遊びに来て下さい。

EXPO JAPAN
(80,240,25)

ホームページリニューアル トオショウスタイル Google検索